

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400303		
法人名	有限会社 札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地	札幌市西区発寒6条13丁目10番22号 (電話) 011-668-0200		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成20年12月17日

【情報提供票より】 (平成20年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤2人, 非常勤 8人, 常勤換算4.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 20,000円 暖房費(11~3月): 8,000円
敷金	(有) (35,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要 (11月17日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82.6歳	最低 67歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢総合クリニック 日の出歯科クリニック	北海道脳神経外科記念病院 静明館診療所
---------	--------------------------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム すこやか」は、近隣に商店、小学校、公園などがある住宅街に位置している。改造した建物の2階に居住し、1階に法人の介護事業所(訪問介護、通所介護、居宅介護支援)が併設されている。開設して3年近くになるが、当初から地域の一住民として交わり、利用者は温かい家庭的な環境で暮らしている。運営者は本人を中心に何が出来るかを、常に念頭におき利用者の思いを叶えるために環境を整えている。「海を見たい、墓参りに行きたい、コンサートを楽しまたい、ドライブをしたい」など、その望みを出来るだけ叶えられるように管理者と職員は話し合っている。個人ケアを重視し、職員は利用者「寄り添い支え合う関係」を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で取り組む課題はないが、評価内容を再確認し、さらなる取り組みについて話し合っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価では項目を理解するために「サービス評価ガイドブック」をもとに全員で話し合い、それらを代表と管理者がまとめた。職員は外部評価がどのような視点で評価するのかを知る機会になった。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 「運営推進会議」には本人・家族も参加し、ホームの運営状況、行事、研修などを報告し、メンバーからも地域の情報を貰う中でホームとして何か手伝うことがないかを聞いている。自己評価、外部評価の結果も報告している。区の担当者にはホームの状況などを毎月メールで報告するほか「グループホーム管理者会」に参加し、そこで行政の担当者と交流し情報交換をしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は利用者・家族・職員が「一つの輪」として、利用者の暮らしを支えることを大切にしている。毎月「すこやか便り」と金銭出納帳を送付し、職員の離職の際は本人の挨拶を便りに載せ報告している。家族とは信頼関係を築く中で意見を言いやすいように配慮し、本人が墓参りに行きたい、コンサートに行きたいなどの話がある場合は、ホームで個別の対応をし、柔軟に支援している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事に参加し、定期的なボランティアの訪問、また小学生の体験学習など、住民との交流は盛んである。ホームが企画した「すこやか秋祭り」では、代表と管理者が事前に近隣に挨拶し、当日には近所の人、小・中学校の生徒、ボランティアなどが参加し、駐車場で盛大なお祭りになった。住民の理解も得られ、交流が深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あたたかい手で利用者の暮らしを支える法人の運営方針に沿い、グループホーム独自の理念を5つの項目にして作っている。長い文章を短い文にまとめて、その中に地域との連携をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下には詳細に記した理念が掲げている。職員が見えやすい居間にも掲示し、5つの項目を差し替えて意識化を図っている。職員はカンファレンスで理念を共有し、また、詳細な文章と短い文を両面に記載したカードを持ち歩き、「利用者へ寄り添うケア」ができているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事に参加し、定期的なボランティアの訪問、また小学校児童のホーム体験など、住民との交流は盛んである。ホームが企画した「すこやか秋祭り」では、代表と管理者が事前に近隣に挨拶をし、当日には近所の人、小・中学校の生徒、ボランティアなどの参加があり、駐車場で盛大なお祭りになった。住民の理解も得られ、交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では項目を理解するために「サービス評価ガイドブック」をもとに全員で話し合い、それらを代表と管理者がまとめた。職員は外部評価がどのような視点で評価するのかなど、細かいところまで知る機会になった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、本人・家族も参加している。ホームの運営状況、行事、研修などを報告し、メンバーからも地域の情報を貰い、ホームとして何か手伝うことがないかを聞いている。自己評価、外部評価の結果も報告しているが、参加者からは自宅では困難なことでもホームでは対応しているので感心するとの言葉もある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの状況や運営推進会議の議事録などを毎月メールで担当者に報告している。区・市のグループホーム管理者会議に参加し、そこで行政の担当者と交流し情報交換をしている。生活保護の担当者とは行き来し話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	管理者は利用者・家族・職員が「一つの輪」として、利用者の暮らしを支えること大切にしている。そのため全職員が情報を共有し、家族の来訪時には普段の暮らしを詳しく伝えている。毎月「すこやか便り」と金銭出納帳を送付し、職員の離職の際には本人の挨拶を便りに載せて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にはコミュニケーションをとり、信頼関係を築く中で意見を言いやすいように配慮している。その中で、本人が墓参りに行きたい、コンサートに行きたいなどの話がある場合は、ホームで個別の対応を柔軟に支援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、また、管理者は職員が働きやすいような環境を作り、離職がないように努めている。仕事時間の短縮や勤務が終わるまで子供が職場で過ごすなど、職員の事情に沿って配慮している。離職する場合は利用者に挨拶し、他の職員は寂しさが残らないように関わっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成を積極的に進め、研修費用は会社で負担している。管理者が研修会の情報を流し、経験、レベルに沿って希望者を決めている。職員は平均して年に数回は外部研修で必要な知識や技術を学び、それらを職員間で共有している。職員のレベルに応じて他グループホームや介護施設で実習も体験している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム管理者会」では、職員の交流や研修を積極的に進めており、当ホームの職員も多く参加し、事例検討研修などは日々のケアに役立っている。今年の企画に、区の同業者の利用者が集まる「食事会」をつくり、地域の店で多くの利用者が参加し楽しむ機会になった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅、病院、施設などからの入居希望時には、必ず管理者が訪問して状態の把握や要望などを聞いている。本人・家族が見学し何度か話し合うなかで顔馴染みになり、入居後は職員が親身になって寄り添い、会話をしながら利用者を受け入れて貰うように関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす中で場面ごとに学んでいる。利用者は朝から職員を笑顔で迎え、仕事帰りには玄関まで送りねぎらうなど、利用者からエネルギーをもらっている。日々の生活でお互いが必要な関係になっていると職員は受け止めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式で情報を聞き取り、また、本人と会話を交わす中で思いを把握して、利用者の個別の望みをできるだけ叶えられるように計画に載せている。意思表示が困難な場合は常に声をかけをし、表情や仕草から思いを汲みとるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、介護支援専門員（管理者）が利用者の自宅などを訪問し、本人や家族と話し合い、思いや意向をセンター方式のシートにまとめている。更に主治医の意見を参考にし、介護計画の原案を作成している。全体会議で職員と意見交換を行った後に、家族の来訪時に説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の定期的な全体会議で見直しを行っている。意見交換を行い易いように、事前にカンファレンスシートに各職員が意見をまとめている。入退院時には、心身の状態の変化が大きいため医療機関や家族、状況に応じて本人から意見を求め介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、在宅診療所の主治医が点滴を実施し入院を回避している。かかりつけ医や「すこやか健診」の通院介助、買物などの外出を支援している。また、同一法人が提供している通所介護に参加する利用者もおり、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用していた医療機関を継続することができるよう、支援している。透析の通院介助や入居前からのかかりつけ医が事業所に往診に来ている。協力医療機関の往診以外は、随時通院の介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた方針に関する書面を作成している。事業所で看取りを行って行きたいと考えており、どのような最期を迎えたいのか本人や家族の希望や意思の確認、事業所の介護体制などを具体的に書面にまとめ必要に応じて説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時に、年長者を敬う言葉遣いをするように指導している。職員を「孫」と思っている利用者には、「おばあちゃん」と呼びかけるなど、利用者の心身に応じて言葉をかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、管理者を日勤者として配置しないという職員体制を活かし、利用者の希望に沿うように個別に対応している。「寄り添う」ことを大切に、本人の希望を会話や質問を通して把握するよう、努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が近隣のスーパーに買物に出かけ、冷蔵庫の中にある食材で当日の食事を作っている。本人の嗜好や飲み込みの力に応じて献立や調理形態を変更している。男性の利用者が盛り付けをしたり、一人ひとりの力に応じて茶碗拭きなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間に拘らず、いつでも入浴することができる態勢を整えており、週2回の入浴を目標としている。男性の利用者は、近くの銭湯を利用することもあり、その際は男性職員が同行している。また、定山溪に出かけ人情劇を観て温泉を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の向かいにある小学校の子供たち、ギター演奏や本の読み聞かせなどのボランティア、よさこいソーランの踊りのグループなどの訪問や、畑で野菜や花を育てる、漬物を漬けるなどを通して活気のある日常生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に野菜の様子を見に行く、洗濯物を干すために外に出る、事業所内で飼っている犬の散歩に出かける、駅前のスーパーに買物に行く、仏様に供える花を買いに行くなど日常的に外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関にセンサーを設置し出入りを確認している。職員の見守りと、隣接している商店主や地域の人々の協力を得て安全な生活を支援している。また、「SOSネットワーク」を利用し緊急事態に備えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者参加で消防署の指導の下に消火器の使用や夜間を想定した訓練を行っている。防火管理は警備会社に遠隔移報方式での委託を行い、火災発生の予防に努めている。また、運営推進会議の委員でもある町内会の福祉部長の協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に1日およそ1,500mlの水分を摂ることができるよう、多様な飲み物を用意している。透析を受けている利用者の献立は、主治医の指導の下、水分やカリウムを制限している。管理者が月1回、インターネットを活用して栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の突き当たりや居間の片隅に藤製の一人用の椅子を配置し、一人で過ごせる場所を用意している。壁には、職員手作りのサンタクロースや雪だるまの大きな紙細工が飾られている。季節ごとに飾りを変えて季節感を採り入れている。「使っています」という手作りの札をトイレのドアに掛けて安心して排泄ができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、木製の手作りの郵便受けが掛かっている。事業所は、各居室のカーテンの色と壁紙を同色にし、違いを表現している。カーペットを敷き、座り机や筆筒を置いたり、家族がシクラメンの鉢などを飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。